

よくわかる！大阪のがん診療NOW

③項目の選択

- 調べたい情報を選択する。

項目の選択		
診療数・従事者数	診療内容	情報提供
<input type="radio"/> 各がん共通：患者数		
<input type="radio"/> 各がん共通：総医数・専門医		
<input type="radio"/> 各がん共通：専門・認定看護師		
<input type="radio"/> 各がん共通：専門・認定薬剤師、専門技師など		
<input type="radio"/> 各がん共通：転移性がんの手術数（平成24年4月～7月）		
<input type="radio"/> 大腸がん：専門医		
<input type="radio"/> 大腸がん：患者数（原則、平成24年4月～7月までの新入院患者）・手術数（平成24年4月～7月）		

よくわかる！大阪のがん診療NOW 選択項目一覧(例:大腸がん)

- 診療数・従事者数
 - 各がん共通：患者数
 - 各がん共通：認定医・専門医
 - 各がん共通：専門・認定看護師
 - 各がん共通：専門・認定薬剤師、専門技師など
 - 各がん共通：転移性がんの手術数（平成24年4月～7月）
 - 大腸がん：専門医
 - 大腸がん：患者数（原則、平成24年4月～7月までの新入院患者）・手術数（平成24年4月～7月）
- 診療内容
 - 薬学療法（治療内容）など
 - 化学療法：体制
 - 化学療法：患者数・処方数（平成24年4月～7月）
 - 化学療法：従事者数・専門医など
 - 放射線療法：体制
 - 放射線療法：患者数（平成23年1月～12月の間に放射線治療を開始した患者数）
 - 放射線療法：医師数・専門医など
 - 放射線療法：医師以外の従事者数・専門性など
 - 緩和ケア：体制
 - 緩和ケア：患者数・従事者数
 - 先進医療
 - 病理
 - 画像診断：体制、検査件数（平成23年1月～12月）
 - 画像診断：診療機器
 - 病棟連携・病診連携
 - セカンド opinions
 - リンパ浮腫の診療
- 情報提供
 - 患者サロンなど
 - 臨床研究と治療

よくわかる！大阪のがん診療NOW 検索結果画面

- 放射線療法：医師数・専門医など

病院名	患者数	医師数	専門医数	認定看護師数	認定薬剤師数	専門技師数
大阪大学医学部附属病院	5	常勤 4人 非常勤 1人	常勤 6人 非常勤 8人	常勤 6人 非常勤 6人	常勤 6人 非常勤 6人	常勤 6人 非常勤 6人
市立豊中病院	6	常勤 1人 非常勤 6人	常勤 6人 非常勤 6人	常勤 6人 非常勤 6人	常勤 6人 非常勤 6人	常勤 6人 非常勤 6人
市立北田病院	3	常勤 6人 非常勤 6人	常勤 1人 非常勤 6人	常勤 6人 非常勤 6人	常勤 6人 非常勤 6人	常勤 6人 非常勤 6人
大阪府東生会北田病院	4	常勤 6人 非常勤 6人	常勤 4人 非常勤 8人	常勤 6人 非常勤 6人	常勤 6人 非常勤 6人	常勤 6人 非常勤 6人
市立大東病院	0	常勤 6人	常勤 1人	常勤 6人	常勤 6人	常勤 6人

よくわかる！大阪のがん診療NOW 詳細別紙情報

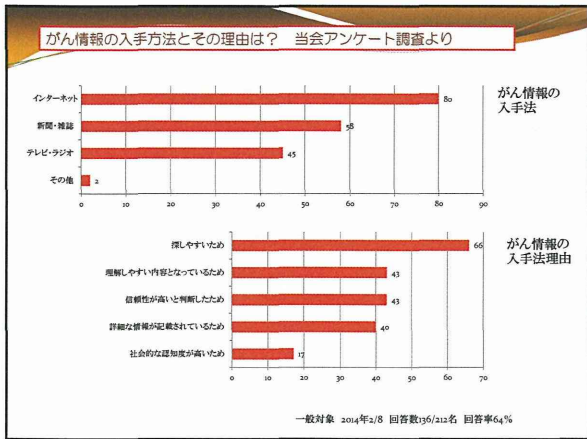
- 全36種類の別紙を項目から、または病院名の両方から探すことができる。

よくわかる！大阪のがん診療NOW

「がん診療NOW」から参照可能な別紙一覧

別紙項目から探す

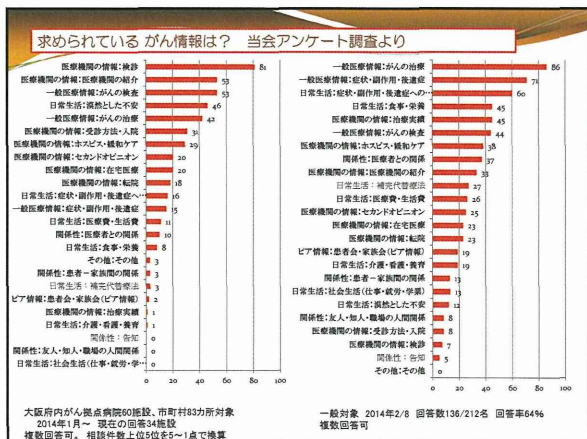
- 保有する放射線治療施設等の一覧 (別紙1)
- 先進医療への対応状況(がんに関するもの) (別紙2)
- がん診療における医師・科目の選択体制 (別紙3)
- がんに関する関係の診療の実施状況 (別紙4)
- 我が国に多いがん以外の各医療機関が専門とするがん (別紙5)
- 我が国に多いがんに対する診療体制 (国指定：別紙6、府指定：別紙5)
- 各病院が専門とするがんに対する診療体制 (国指定：別紙7、府指定：別紙6、府指定：別紙8、小児：別紙8)
- 院内ケアのバリエーション(がんに関するもの) (国指定：別紙9、府指定：別紙7、府指定：別紙8、小児：別紙5)



これからの大阪がんええナビに求めること

- 市民・患者目線で作られた分かりやすいサイトである。今まで利用していなかったが、今後活用したい。
- 在宅での生活、独居生活をいつまで、どこで、どのように、住み慣れた町・仲間と、がんを患いながら安心して過ごせるような情報提供を期待します。
- がん支援は皆です。患者・家族・医療者・地域・行政など、そのつながりが見える形で示してくれれば。
- 大阪在住の人にとっても良いツールだと思う。各都道府県にも同じようなものができれば良いと思う。

大阪がんええナビ



大阪府がん対策基金補助金採択事業 がん検診啓発パンフレット

大阪府がん登録最新フォローアップより
"経過年数10年"、"がん検診で見つかるがんの割合"を用い、データの裏付けあるメッセージを。

がん検診で見つかるがんの割合
経過年数10年未満の場合、がん検診で見つかるがんの割合は約45%です。経過年数10年以上になると、がん検診で見つかるがんの割合は約60%に増加します。

経過年数10年以上になると、がん検診で見つかるがんの割合は約60%に増加します。

がん検診で見つかるがんの割合
経過年数10年未満の場合、がん検診で見つかるがんの割合は約45%です。経過年数10年以上になると、がん検診で見つかるがんの割合は約60%に増加します。

経過年数10年以上になると、がん検診で見つかるがんの割合は約60%に増加します。

がん検診で見つかるがんの割合
経過年数10年未満の場合、がん検診で見つかるがんの割合は約45%です。経過年数10年以上になると、がん検診で見つかるがんの割合は約60%に増加します。

経過年数10年以上になると、がん検診で見つかるがんの割合は約60%に増加します。

がん検診で見つかるがんの割合
経過年数10年未満の場合、がん検診で見つかるがんの割合は約45%です。経過年数10年以上になると、がん検診で見つかるがんの割合は約60%に増加します。

経過年数10年以上になると、がん検診で見つかるがんの割合は約60%に増加します。

大阪がんえナビは、患者目線の情報提供を通じ
市民と医療に関するステークホルダーをつなぐ
活動をめざしています。

皆さまのご活用、そして協働・連携を
お待ちしております。

ご清聴ありがとうございました。



がんとも シンボルキャラ
がん早期 ハッケン君

患者にとっての医療情報～がん医療から考える～

読売新聞東京本社記者 本田麻由美

筆者は2002年に乳がんが見つかり、局所再発などもあって3度の手術、抗がん剤治療、放射線治療、ホルモン療法を約10年にわたり受け、一昨年8月に治療を終えた「がんサバイバー」だ。こうした患者の立場から痛感するのは、「治療の選択は生き方の選択だ」ということだ。医療技術の進歩により、多くの疾患で治療の選択肢は増えている。同時に、インターネットなど多くのメディアに様々な情報が溢れている。そんな中で自身の治療を選択するには、病気を正しく理解し、治療の選択肢とそのリスクなどを理解する必要がある。だが、いざ患者となると、きちんと理解しなければと思う気持ちと、そんな怖いことを知りたくないと思ってしまう気持ちが رفتり来たりする。こうした精神状態で、医学的な情報を患者が医療者と共有するのは簡単ではない。また、医学的には最適な治療法でも、自身の生き方や人生に照らし合わせて考えると選択できない場合もある。この患者の考え方や生き方に関する情報を、医療者と共有できていなければ、診療の場でお互いに不信感が生まれてしまう。実際、筆者も抗がん剤治療と自身の妊娠出産をあきらめるか否かの選択で、情報共有のために医師と対話を重ねる必要があった。質の高い医療を実現するには、患者と医療者の情報共有が必要だとされるが、それは医療者が一方的に医学的な情報を提供することではなく、こうした双方向の共有であり、医療者はもちろんだが患者・市民も自覚する必要がある。それには対話が必要であり、それが信頼関係につながると確信する。

2006年に制定された「がん対策基本法」成立に向けた動きの発端も、患者たちが「情報は生きる光だ」と患者のための情報提供などを求めたことから始まった。そうした動きの中で、患者たちは何を求め、基本法施行後7年がたった今、どんな形でがん医療情報が提供されるようになったのか。それは患者・国民の思いにかなったものなのかを考えたい。

公益財団法人
日本医療機能評価機構
Japan Council for Quality Health Care

「医療の質指標 ポータルサイト」 および 「医療の質に関する webアンケートの結果」 について

公益財団法人日本医療機能評価機構
企画部 菅原浩幸、横山 玲、今中雄一

0145-911 ケアデザインセンターフォーラム

公益財団法人
日本医療機能評価機構
Japan Council for Quality Health Care

医療の質評価

- The Australian Council on Healthcare Standards (ACHS) がQuality Improvement (QI) Awardを1998年から実施している
- Agency for Healthcare Research and Quality (AHRQ) ではQIライブラリを公開している
- 国内では、全日本病院協会、日本病院会、国立病院機構、慢性期医療協会、QIP等の団体でDPCデータを中心にデータ収集および公開に取り組みが広がっている

0145-911 ケアデザインセンターフォーラム

公益財団法人
日本医療機能評価機構
Japan Council for Quality Health Care

医療の質指標ポータルサイト

- 目的: 日本国内の病院団体等が実施している指標を用いた医療の質評価について、指標の定義のまとめを作成し、指標を用いて医療の質評価・改善に取り組もうとする病院・医療者の参考とする
- 内容: 医療の質評価指標リスト、医療の質公表団体リンク集、医療の質公表病院リンク集、医療の質指標プール (DPCデータに基づく指標定義一覧)

0145-911 ケアデザインセンターフォーラム

公益財団法人
日本医療機能評価機構
Japan Council for Quality Health Care

医療の質指標ポータルサイト

医療の質指標ポータルサイトについて

医療の質指標 (QI: Quality Indicator) は、医療の質を定量的に把握・評価するための指標として、医療の質改善のためのツールとして活用されています。また、この活用や公開は、医療機関の透明性を高めることにもつながります。一方で、医療の質指標は、病院の競争力向上に役立つものではありません。医療の質を厳密に測定することは極めて困難であり、医療には様々な異質性があり、定量化できる一部をもって全体の質を語ることはできないことなど、医療の質指標をみる際には、その限界を認識する必要があります。

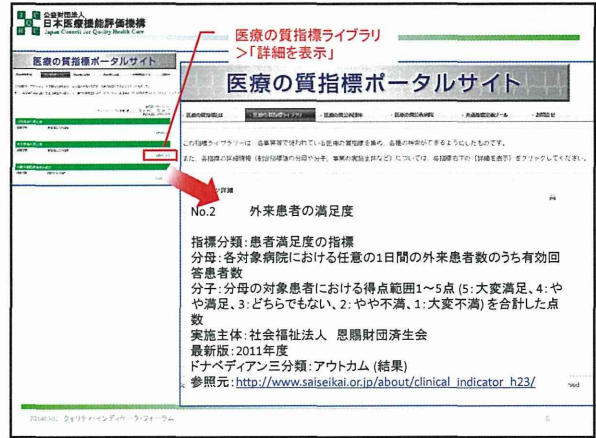
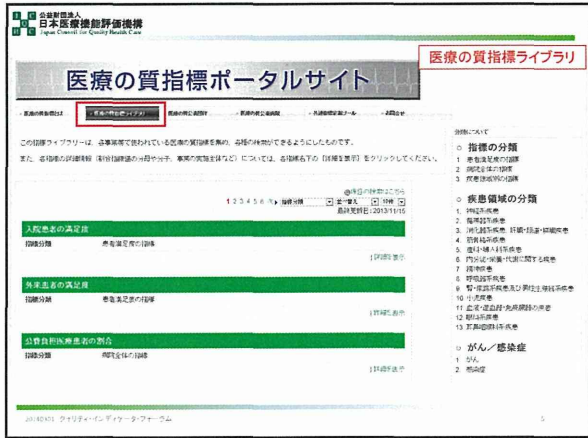
医療の質指標の算出や公開などが促進進んでいますが、医療の質向上に益々活用されることが期待されます。当ポータルサイトは、病院団体等、多施設で用いられている医療の質指標に関する情報を広く収集・整理することで、医療の質指標の活用を促進することを目的としています。

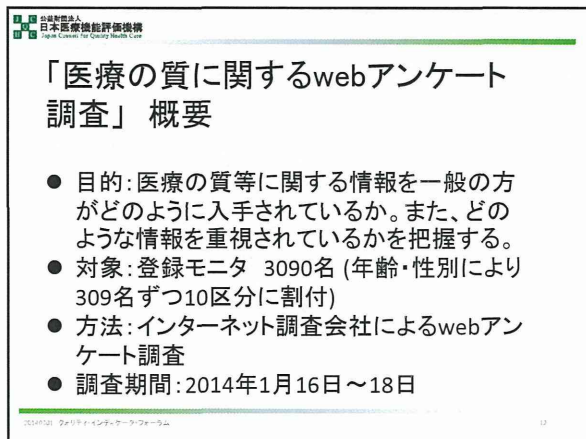
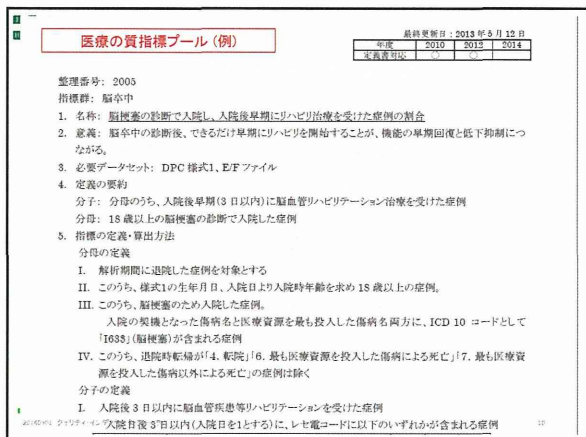
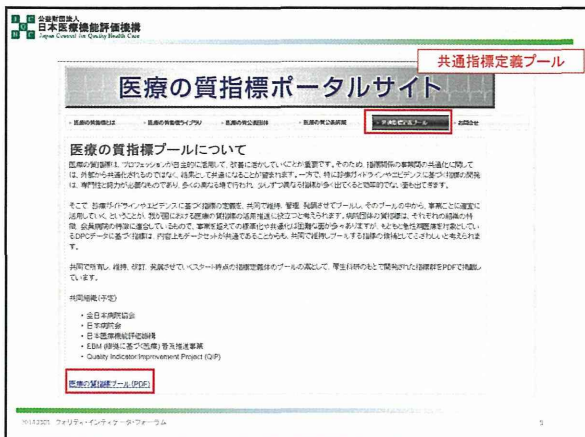
※当サイトの立ち上げは、厚生労働省の平成24-25年度厚生労働科学研究費 (H24-1-09) による。

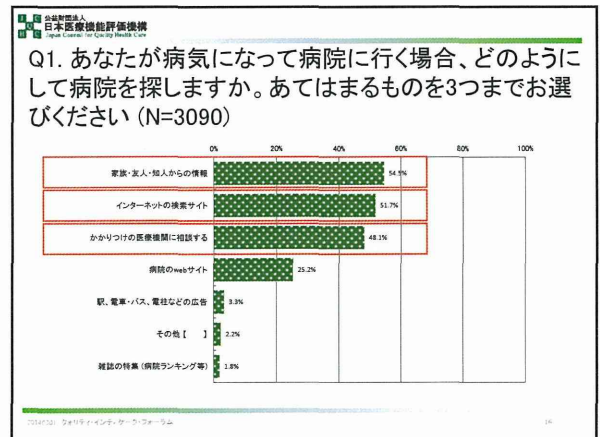
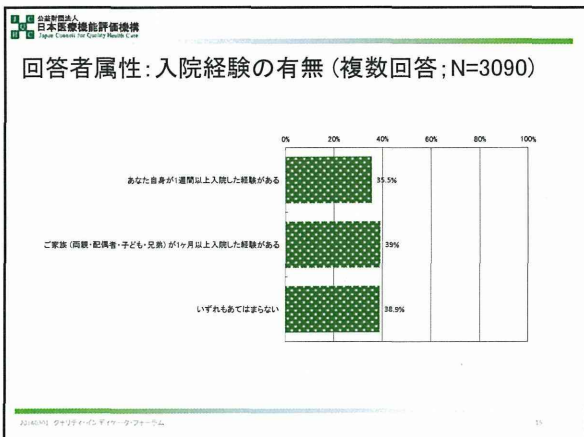
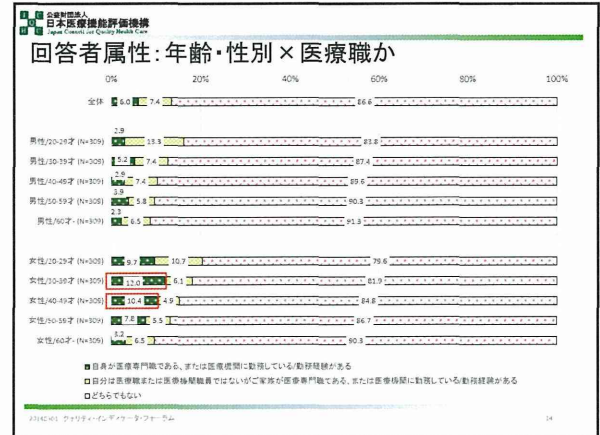
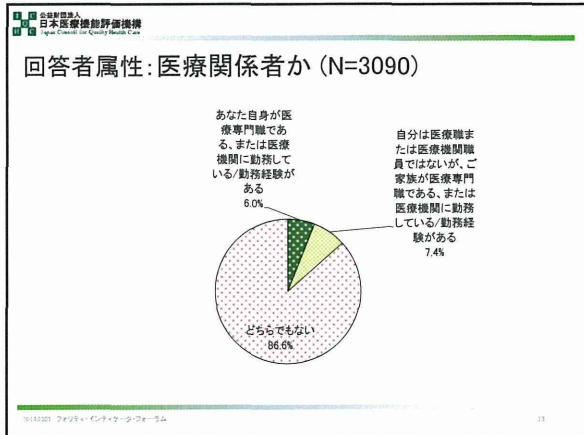
Copyright (c) 2013 The MHLW-funded Research on Standardization and Public Disclosure of Quality Indicators in Health Care. All rights reserved.

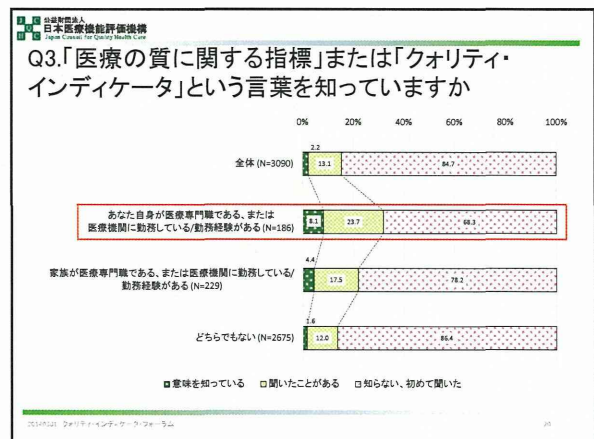
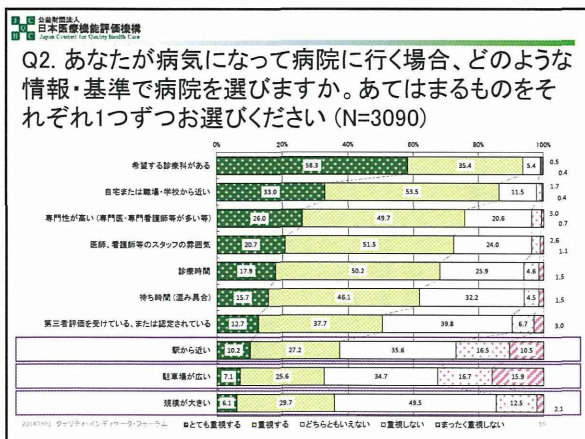
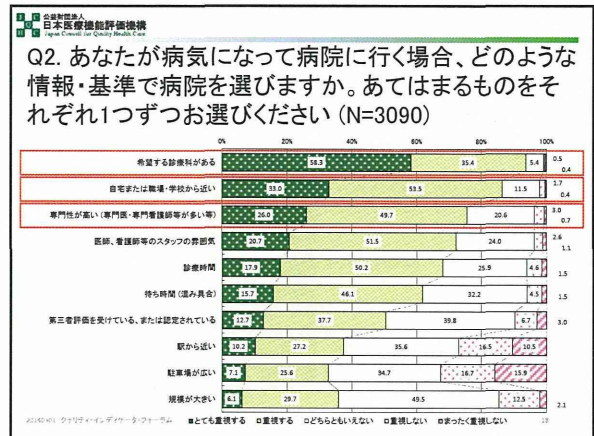
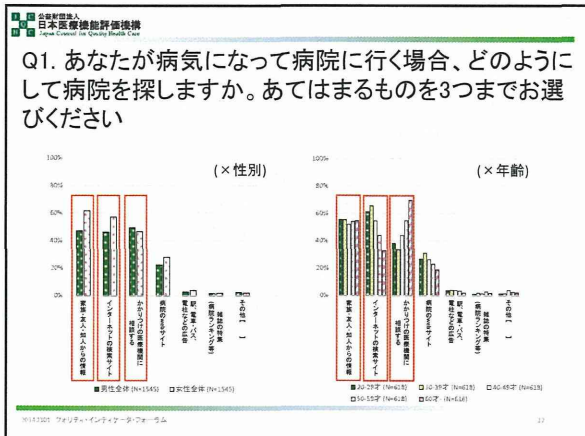
<http://quality-indicator.net/>

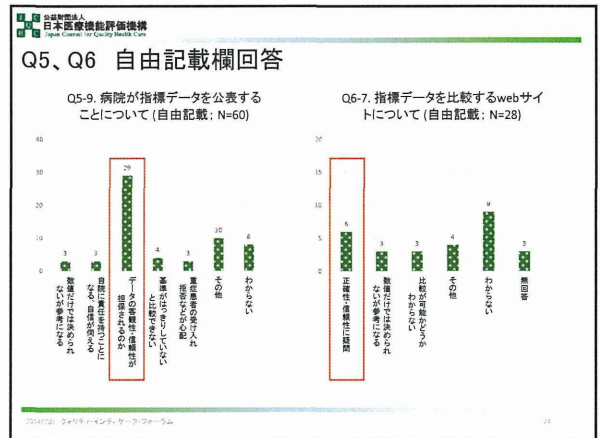
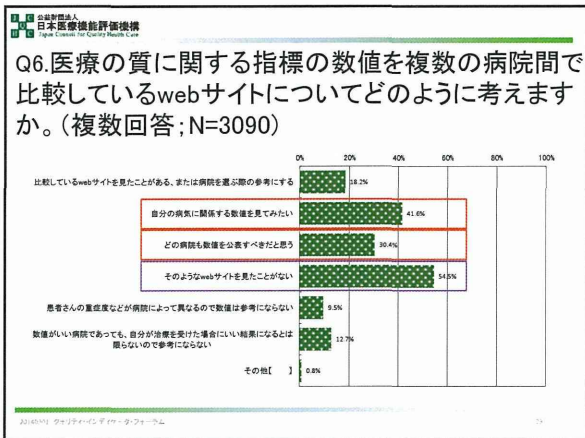
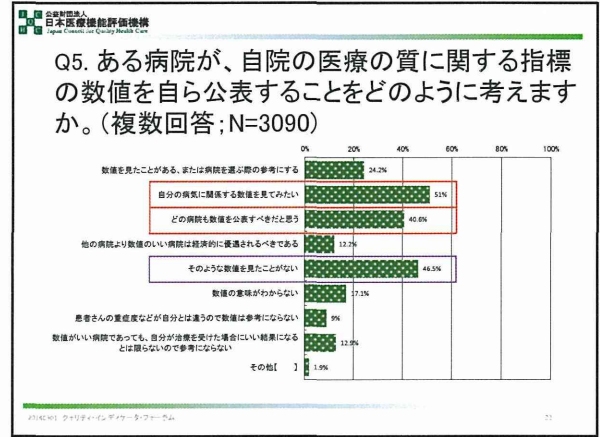
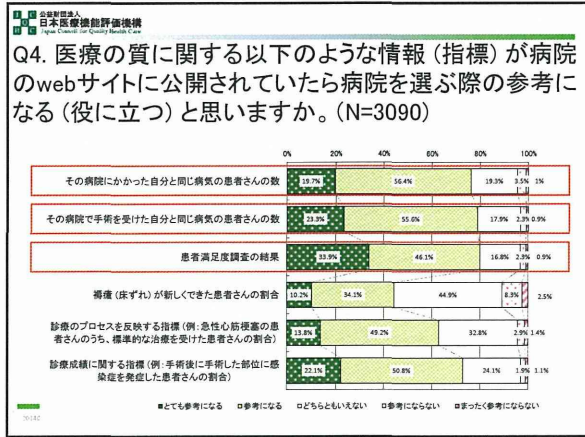
0145-911 ケアデザインセンターフォーラム

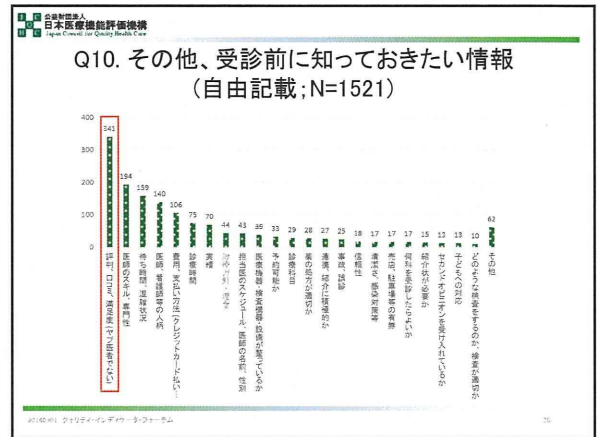
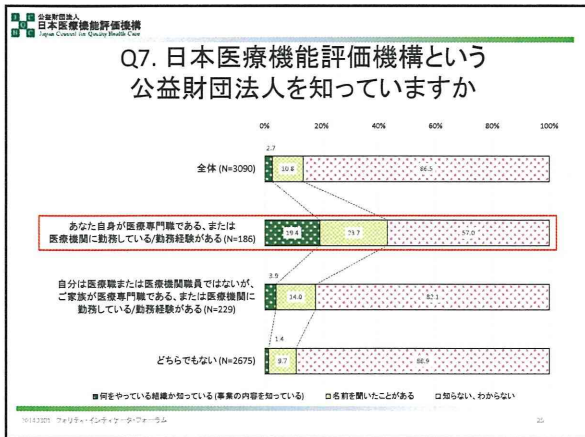












公益財団法人
日本医療機能評価機構
Japan Council for Quality Health Care

「医療の質に関するwebアンケート調査」まとめ

- Q5、Q6の結果から、「質指標を公表/比較しているページを見たことはないが、自分の病気に関する数値を見たい」という要望がうかがえた。
- また、病院間で数値を比較するよりも、自分がかかっている病院の数値を見たいとする回答が多い結果となった。
- 一方で、数値の信憑性/信頼性を疑う意見や「口コミや評判を重視する」という自由記載が目立った。

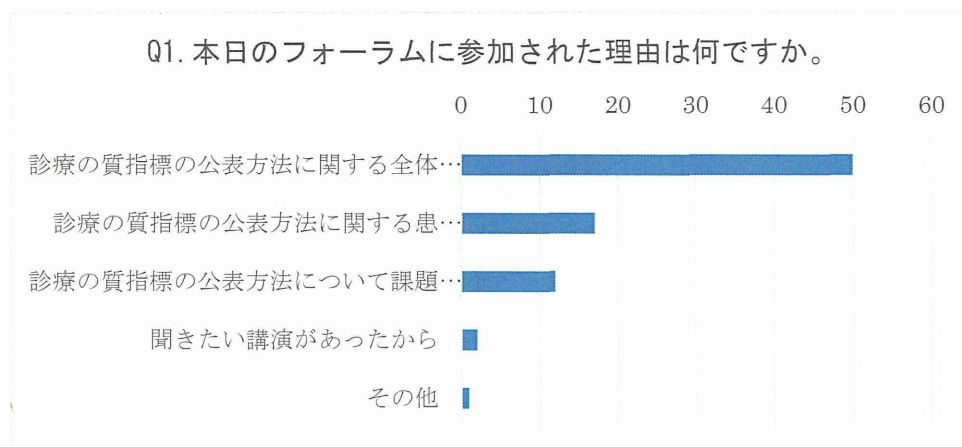
2018.2020 フェリチーインシテマータフォーラム

クオリティ・インディケータ・フォーラム アンケート集計結果

- 開催日時：2014年3月1日（土）13時～17時
- 回収総数：74（参加総数92名；回収率80%）

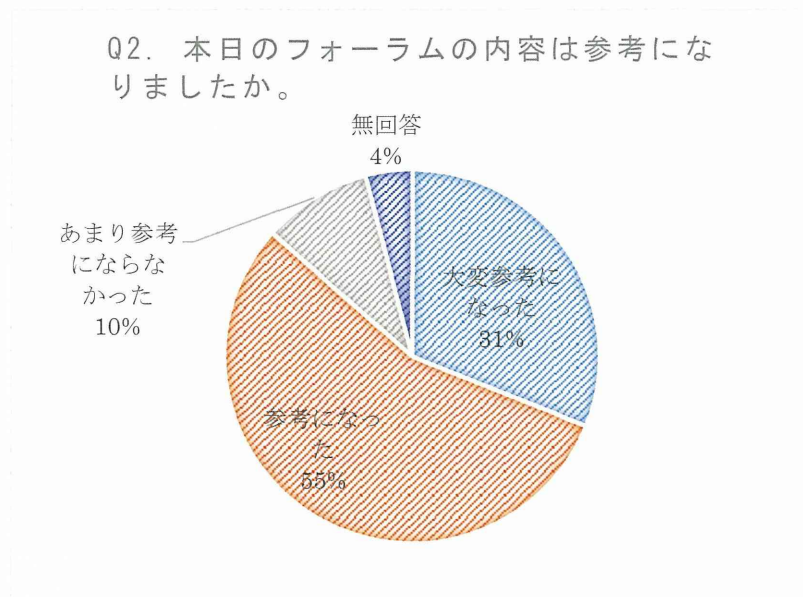
Q1. 本日のフォーラムに参加された理由は何ですか。

回答	回答数	%
診療の質指標の公表方法に関する全体的な状況を把握したかったから	50	68%
診療の質指標の公表方法に関する患者・マスコミの意見を知りたかったから	17	23%
診療の質指標の公表方法について課題を抱えていたから	12	16%
聞きたい講演があったから	2	3%
その他	1	1%



Q2. 本日のフォーラムの内容は参考になりましたか。

回答	回答数	%
大変参考になった	23	31%
参考になった	41	55%
あまり参考にならなかった	7	9%
全く参考にならなかった	0	0%
無回答	3	4%



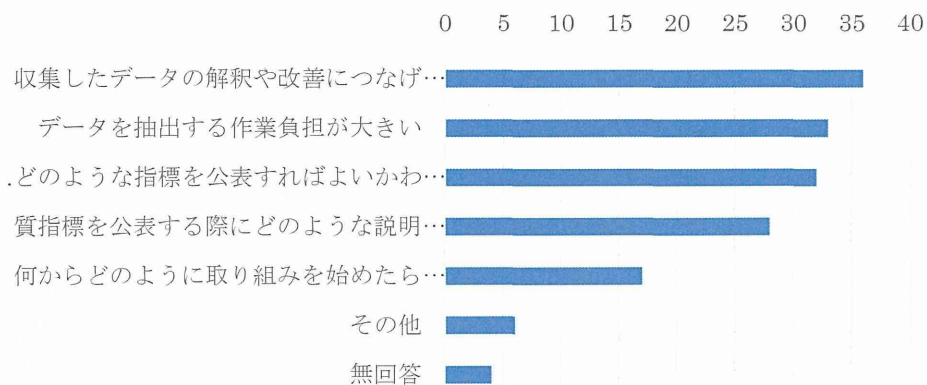
Q3. 本フォーラムを受けて、質指標の公表に関してどうお感じになったか、ご意見をお聞かせください。

主な回答
患者視点の大切さを改めて感じた。
患者の求める指標が分かったので、今後活用していきたい。
患者・市民の会と協力してQIに取り組んで生きたい。
これまでの取り組みを見直すきっかけとなった。
QIを積極的に公開すべきであると感じた。
QIをランキングや格付けに使用すべきでないと感じた。
患者が知りたい指標と医療者が提供する指標のギャップにどうアプローチしていくか、さらに検討が必要だと感じた。

Q4. 病院に勤務されている方に伺います。診療の質評価・向上に関する取り組みを進める上で、院内で課題・問題となっていることは何ですか。(複数回答可)

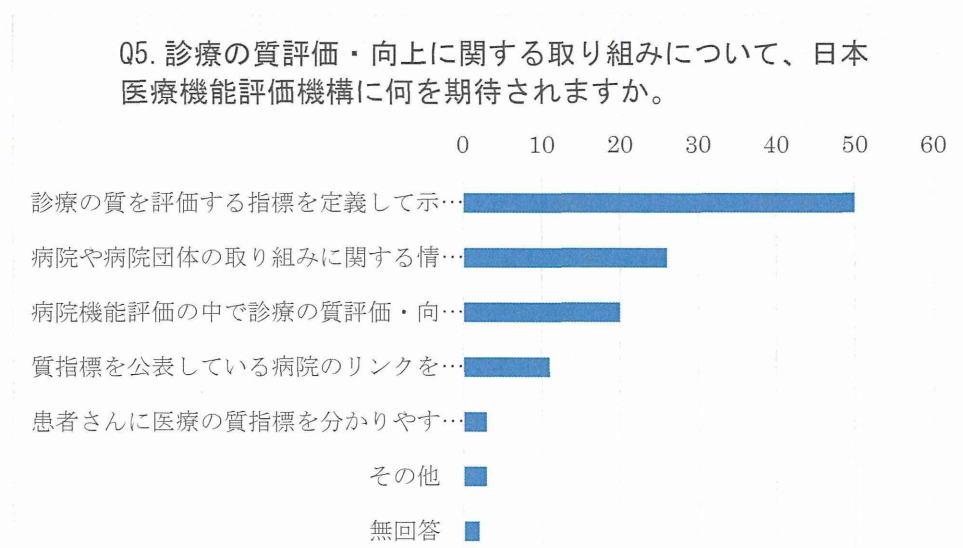
回答	回答数	%
収集したデータの解釈や改善につなげる方策がわからない	36	49%
データを抽出する作業負担が大きい	33	45%
どのような指標を公表すればよいかわからない	32	43%
質指標を公表する際にどのような説明をつければ患者の方に理解してもらえるか分からない	28	38%
何からどのように取り組みを始めたらよいかわからない	17	23%
その他	6	8%
無回答	4	5%

Q4. 病院に勤務されている方に伺います。診療の質評価・向上に関する取り組みを進める上で、院内で課題・問題となっていることは何ですか。



Q5. 診療の質評価・向上に関する取り組みについて、日本医療機能評価機構に何を期待されますか。(複数回答可)

回答	回答数	%
診療の質を評価する指標を定義して示してほしい	50	68%
病院や病院団体の取り組みに関する情報を提供してほしい	26	35%
病院機能評価の中で診療の質評価・向上に関する取り組みを評価してほしい	20	27%
質指標を公表している病院のリンクを教えてください	11	15%
患者さんに医療の質指標を分かりやすく説明する資料を作成してほしい	3	4%
その他	3	4%
無回答	2	3%



Q6. 本フォーラムに関するご意見や、今後扱って欲しいテーマなどがございましたら以下にお書きください。

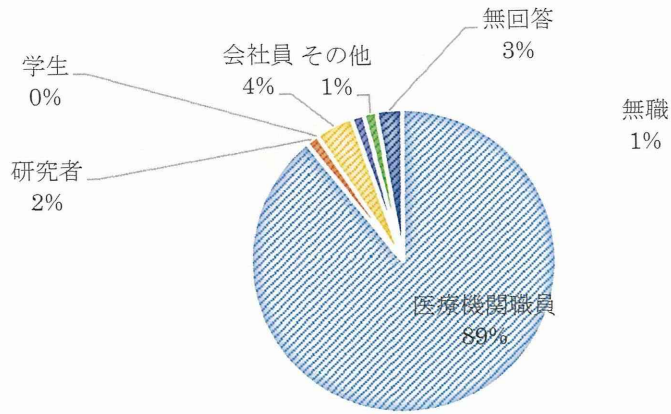
1.フォーラムに関するご意見

主な回答
今後は紹介されたポータルサイトを活用させていただきます。
患者や市民の立場を考えた指標の公表を心がけたいです。
今回のテーマは大変有意義に感じます。今後もできるだけ継続してください。
医療者側ではない方の話を直接聞くことができ大変参考になりました。
患者だけでなく病院側も含めてディスカッションが出来るとさらに良かったのではないかと思います。

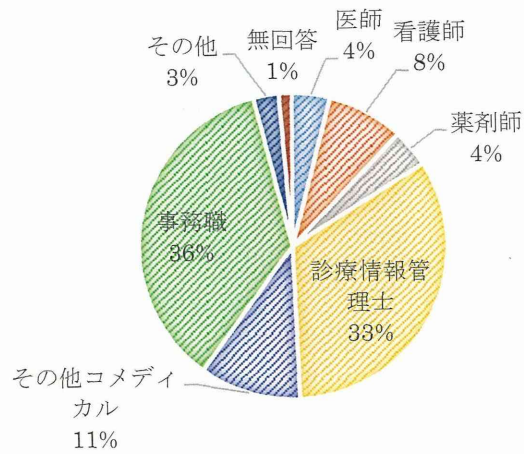
2. 今後扱って欲しいテーマ

主な回答
改善すべき指標の具体例と定義
指標の活用事例
病院はどこまで指標を公開すべきか
データの質を担保するためにはどうすべきか

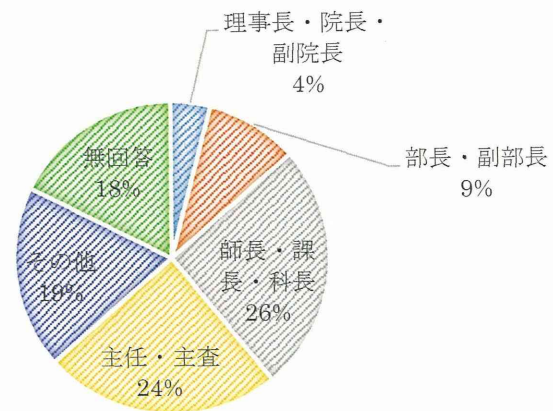
アンケート回答者属性：職業



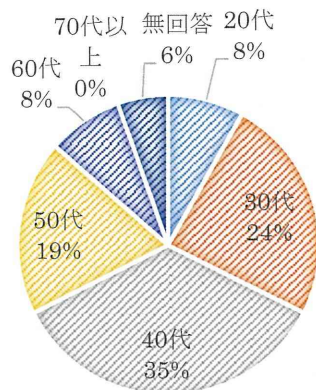
アンケート回答者属性：職種



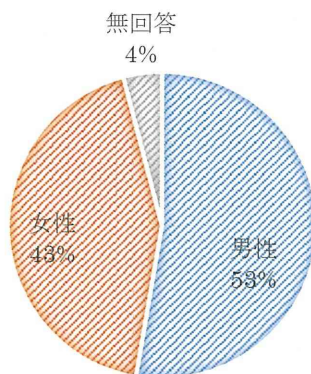
アンケート回答者属性：役職



アンケート回答者属性：年齢



アンケート回答者属性：性別



以上

資料 4. 「医療の質に関するアンケート」結果概要